

サスペンション フロントフォーク 〈エア/エア〉/〈エア/ハイドロ〉、〈コイルスプリング/ハイドロ〉システム

サスペンションフォークをご使用になる前にお読み下さい。

この取扱い説明書をすべてお読みになってからサスペンションフォークをご使用ください。サスペンションフォークを不適切な方法で使用すると思わぬ大怪我をする可能性があります。すべての注意事項に従うようにお願いします。

この取扱い説明書には正しい取り付けと使用方法に関する重要な情報が含まれています。この取扱い説明書は大事に保管して下さい。

サスペンションフォークをお譲りなるときにはこの取扱説明書も一緒にお渡し下さい。

新しいサスペンションフォークは動きに馴染みが出るまで少し時間がかかります。

最初の乗車300-500kmの間はフォークの動きに多少変化が現れることがあります。まずはじめにフォークのロワーチューブに少し遊びが出ていることに気づくと思います。これは正常な動きです。サスペンションフォークは劇的に自転車の乗り心地、操作性を向上することが可能ですが、その反面ハンドリング特性を変えることがあります。新しいセッティングに慣れるまでは十分に注意して乗車して下さい。



重要安全事項

自転車に乗車する前には必ずブレーキが正しく取り付け、調整がされていることをご確認下さい。

フォークの部品が破損している場合はその自転車には乗車しないで下さい。特に転倒衝突した後や異常な音の発生、その他フォークが破損していることが判断できるような場合は特に乗車しないで下さい。これらの場合はご購入された販売店に状態の確認、修理をご依頼下さい。常にSRサンツアー純正の補修部品をご使用下さい。他社の補修部品を使用するとサスペンションフォークが壊れる原因になります。また保障の対象外になります。

取り付け方法

SRサンツアーは正しい取り付け、調整と安全確認上、サスペンションフォークはご購入された自転車専門店での取り付けを推奨します。

- ステアリング管は自転車ごとに正しい長さに切断されている必要があります。
- 自転車専用工具と作業経験が必要です。
- もしご自身でサスペンションフォークを取り付けした場合は、ご購入された自転車専門店での取り付け確認し製品保障を有効にして下さい。

取り付け方法：

SRサンツアー サスペンションフォーク ハイドロシステムは、スレッドレス仕様（アヘッド式）のみ生産されています。

アヘッド式ステアリング管に合う正しいヘッドセットを選択して下さい。使用するハンドルバー、ステムの取り付け説明書を参照して下さい。

- SRサンツアーのステアリング管はそれぞれの自転車に合わせて正しい長さに切断する必要があります。
- ステアリング管の切断作業は経験が必要です。ご購入された自転車専門店で作業をお勧めします。

取り付け作業をご自身で作業される場合は、自転車調整などの専門書を参照して下さい。

この場合、製品保障は無効になります。また、SRサンツアーでは偶然、必然的に発生した故障についても責任を負いかねます。

1. 取り付けられているフロントフォークと下玉押しを外して下さい。
 - 取り外したフロントフォークのステアリング管の長さを計測してSRサンツアーのステアリング管と長さを比較して調整が必要かを確認して下さい。
2. 正しいステアリング管の長さは下記項目の長さを加算されている必要があります。
 - フレームのヘッドチューブ長+ヘッドセットのスタックハイト+ステムのスタックハイト。
3. 下玉押しを取り付けるフォーククラウンにしっかりと圧入して下さい。フォークを自転車に取り付けて下さい。
4. ヘッドセットとステムを自転車に取り付けて下さい。ヘッドセットのベアリングはガタが無く、きつ過ぎないちょうど良い玉圧に調整して下さい。
 - 製造メーカーの取扱い説明書に従ってヘッドセット、ステムを取り付けして下さい。
5. ハンドルバーを取り付けて下さい。
6. 製造メーカーの取扱い説明書に従ってブレーキを取り付け、調整して下さい。
 - Vブレーキを使用する場合は、カンチブレーキ台座仕様のフォーク、ディスクブレーキを使用する場合は、ディスクブレーキ仕様のフォークに取り付けて下さい。
7. フォークのトラベル長を考慮してブレーキレバーからブレーキ本体までのアウターケーブルの長さを調整して下さい。

ステム：

- 1-1 / 8 インチ (28.6mm) アヘッド仕様のステムのみをご使用下さい。
- ステム製造メーカーの取扱説明書に従って適正トルクでステムを取り付け下さい。

ヘッドセット：

使用するヘッドセットが取り付けのフォークとフレームに合うことを確認して下さい。ヘッドセットに同封されている取り付け説明書を参照し、取り付け方法に従って下さい。

タイヤクリアランス：

SRサンツアー サスペンションフォークに取り付け可能な最大タイヤ径は、28インチまたは26インチホイールの外径に依存します。またタイヤ幅の確認も必要です。フォークとタイヤのクリアランスは5mm以上が必須です。フォークのブレーキ台座部分がタイヤとのクリアランスの一番狭い部分です。装着するタイヤの幅によってはタイヤの空気を抜かないとホイールの脱着ができない場合がありますのでご了承下さい。

タイヤを新しく交換する場合は、交換するタイヤの高さ、幅を確認して下さい。装着可能なタイヤ径を確認する方法としてはフォークからトップキャップ/アジャストノブ、スプリングアセンブリを取り外してフォークを完全に押し縮めて下さい。

タイヤ上部とフォーククラウン下部のクリアランスが10mm以上あることを確認して下さい。

自転車にドロヨケを装着する場合は、タイヤとドロヨケのクリアランスを再度上記の方法で確認して下さい。

ブレーキ：

SRサンツアーのサスペンションフォークはVブレーキ用とディスクブレーキ用にデザインされています。ディスクブレーキ用のフォークは左側ロワーにディスクブレーキ台座があります。ディスクブレーキのローター径はこの取扱説明書に記載されている大きさローターのみを装着して下さい。5ページ参照。ブレーキの技術的及び取り付け寸法情報は製造メーカーの取扱説明書を参照して下さい。アウターケーブル類はフォークに接触しない十分な長さに調整して下さい。

リモート ロックアウトコントロールレバーの取り付け、操作方法。

リモート ロックアウト シングルレバーの取り付け。

2種類のリモートスピードロック コントロールレバーから使用している変速機構と変速シフターの仕様によって1つを選択することが可能です。

注意：スピードロック カートリッジはフォークの右側に位置しています。

フォークの左右は進行方向に向かったの位置になります。

エアカートリッジがフォーク左側にある場合は、エアカートリッジのセッティング方法のページを参照してセッティングして下さい。

- 1.)ラピッドファイヤー式シフターを使用の場合は、フォークに付属のシングルリモートロックアウトレバーを使用して下さい。(写真#1参照)
- a.)始めにリモートロックアウトレバーをハンドルバーに装着して下さい。2.5mmの6角レンチを使用してレバーブラケットを固定して下さい。(写真#1参照) ロックレバーは垂直方向にレバーが押せるように地面と平行になる位置に取り付けて下さい。
- b.)フォークが正しく作動するようにアウターケーブルの長さを調整して下さい。
- c.)ケーブルテンション調整バレルを反時計回りに2回転させて(写真#3参照) ロックアウト調整ができるクリアランスを取って下さい。
- d.)ケーブル固定ボルトを操作できるようにプラスチックカバーを外して下さい。(写真#4参照) ケーブルをアウターケーブルストッパー、カバーキャップ穴に通して軽くテンションをかけて下さい。
- e.)ケーブルを切断しプラスチックカバーを元に戻して下さい。
- f.)フォークをロックするためにリモートレバーをロックポジションになるまで押して下さい。(写真#5参照) ハンドルを下に押してフォークがロックされているかを確認して下さい。ロックされていない場合は、ケーブルのテンションを調整する必要があります。フォークのロック解除は、リリースレバー(赤)を進行方向に押して下さい。ロックが解除されているかを確認して下さい。(写真#6参照)

リモートロックアウト ツイストグリップの取り付け方法。

- a.)始めにリモートロックアウトグリップをハンドルに装着して下さい。3mmの6角レンチを使用してブラケットを固定して下さい。(写真#8参照) 次にブレーキレバー、シフトレバーを装着して下さい。
- b.)フォークが正しく作動するようにアウターケーブルの長さを調整して下さい。
- c.)ケーブルテンション調整バレルを反時計回りに2回転させて(写真#12参照) ロックアウト調整ができるクリアランスを取って下さい。
- d.)ケーブルを通すためにドライバーを使用してツイストグリップからプラスチックカバーを取り除いて下さい。(写真#9参照)
- e.)ツイストグリップがケーブルを通す穴位置のロック解除になっているかを確認して下さい。通常のシフトケーブルを使用できます。シフトケーブルを穴に通して(写真#10参照)ツイストグリップの溝に沿わせてケーブルテンション調整バレルから出して下さい。(写真#11参照)
- f.)ツイストグリップにプラスチックカバーを戻しドライバーで固定ネジを締めて下さい。
- g.)次にフォーク側のロックアウトユニットにケーブルを固定して下さい。ケーブル固定ボルトを操作できるようにプラスチックカバーを外して下さい。(写真#4参照) ケーブルをアウターケーブルストッパー、カバーキャップ穴に通して軽くテンションをかけて下さい。1.5mmの6角レンチを使用して固定ネジを締めて下さい。(写真#5参照)
- h.)ケーブルを切断しプラスチックカバーを元に戻して下さい。(写真#6参照)
- i.)次にグリップをロックポジションまで回してフォークをロックして下さい。(写真#14参照) ハンドルを下に押してフォークがロックされているかを確認して下さい。ロックされていない場合は、ケーブルのテンションを調整する必要があります。(写真#12参照) フォークのロック解除は、グリップを前方に回して下さい。ロックが解除されているかを確認して下さい。

ロックアウト機能の調整方法。

- a.)ケーブルテンションが強すぎる場合は、フォークはロックされたままでもロックアウトレバーまたはツイストグリップは固定されません。このような場合は、ケーブルテンション調整バレルをロックアウトレバー、ツイストグリップが固定されるまで時計回りに回してケーブルテンションを弱くして下さい。(写真#3/12)
- b.)ケーブルテンションが弱すぎる場合は、ロックアウトレバー、ツイストグリップを作動させてもフォークはロックされません。ケーブルテンションを強くするにはケーブルテンション調整バレルをフォークがロックされるまで反時計回りに回して下さい。
- c.)ケーブルテンション調整バレルを使用してフォークのロックアウトを調整できない場合は、ケーブル固定ネジを開けてケーブルテンションを強くまたは弱く再固定する必要があります。(写真#5参照) この作業の後にa.)とb.)項目を再び作業して下さい。



リモートトラベルアジャストコントロールの取り付けと操作方法。

リモートトラベルアジャストコントロールの取り付け方法。

2種類のリモートトラベルアジャストコントロールから使用している変速機構と変速シフターの仕様によって1つを選択することが可能です。写真#1のシングルレバー仕様と写真#11のツイストグリップとの混合仕様があります。

注意：トラベルアジャストカートリッジはフォークの左側に位置しています。

- 1.) ラビッドファイヤー仕様のシフターを使用している場合は、フォークに付属しているシングルレバー仕様のリモートトラベルアジャストレバーを使用して下さい。(写真#1参照)
- a.) 始めにハンドルバーにリモートトラベルアジャストレバーを取り付けて下さい。3mmの六角レンチでレバーブラケットを固定して下さい。(写真#1参照)次にプレーキレバー、シフトレバーを取り付けて下さい。
- b.) アウターワイヤーはフォーク機能に支障が出ない長さに調整して下さい。
- c.) ケーブルテンションアジャストバレル(写真#3参照)をトラベルアジャスト機能が調整できるように時計反時計回りに2回転させて下さい。
- d.) サスペンションフォーク側の2.5mmの六角レンチを使用してトラベルアジャストユニットのプラスチックカバーキャップを外して下さい。(写真#4参照)アウターケーシングストッパーとケーブルクランプにケーブルを通して(写真#5参照)アウターケーシングキャップをアウターケーシングストッパーにしっかりと入れて下さい。
- e.) ケーブルに軽くテンションをかけてドライバーでフィキシングボルトを締めてケーブルを固定して下さい。(写真#6参照)
- f.) ケーブルをカット(写真#7参照)してプラスチックカバーを戻し、2.5mmの六角レンチでボルトを固定して下さい。(写真#8参照)
- g.) ケーブルの端には安全のためにインナーキャップを付けて下さい。(写真#9参照)
- h.) 次にレバーを押す(写真#10参照)と同時にハンドルバーを下方方向に押しフォークを縮めて下さい。縮めたと同時にレバーとハンドルバーを離して下さい。フォークが縮まった状態で止まったかを確認して下さい。もし止まらない場合はケーブルのテンションを調整する必要があります。縮まった状態のフォークを開放する方法はレバーを再度押しハンドルバーを引き上げて下さい。

トラベルアジャスト調整。

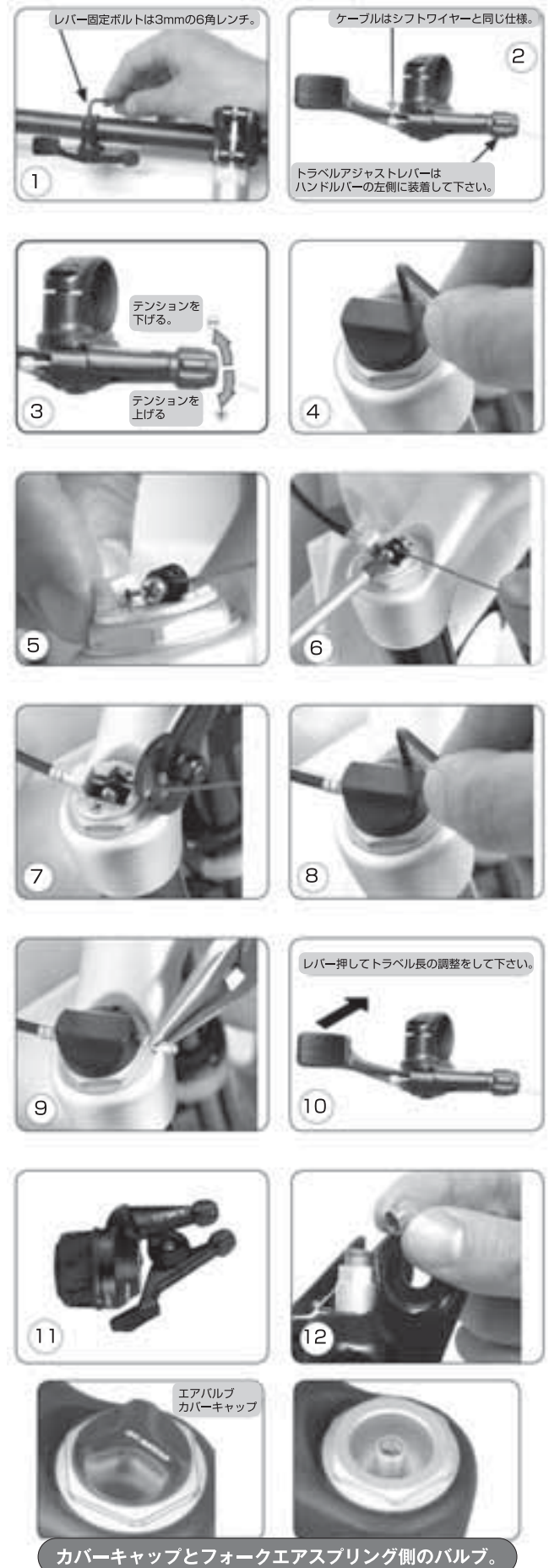
- a.) もしケーブルのテンションが弱い場合、フォークは縮めた状態の位置に止まりません。ケーブルテンションを強くするにはアジャストバレル(写真#3)を時計反時計回りに(+)にフォークが縮めた状態の位置に止まるまで回して下さい。
- b.) アジャストバレルで調整できない場合はケーブルを固定しているボルトを緩めてケーブルテンションを強くまたは弱く再調整して下さい。その後a.)の手順で再度調整して下さい。

エア圧調整。

トラベルアジャストカートリッジのエア圧を高くまたは低く調整する必要がある場合、下記手順で調整して下さい。

- a.) トラベルアジャストカートリッジのドロップアウト側にはエアバルブがあります。エアバルブのカバーキャップを外して下さい。(写真#12参照)
- b.) エア圧ゲージ付のフォークポンプを使用し下記チャートを参照してエア圧を高くまたは低く調整して下さい。

エア圧調整一覧				
体重	エア圧 (左側)		エア圧 (右側)	
	kg	psi	kgf/cm ²	psi
36	62	4.3	15	1.1
36	77	5.4	19	1.4
54	93	6.5	23	1.6
64	110	7.7	27	1.9
73	125	8.8	31	2.2
82	141	9.8	35	2.5
91	156	10.9	39	2.7
100	171	12.0	43	3.0



カバーキャップとフォークエアスプリング側のバルブ。

手動ロックアウトシステムの操作方法。

ロックアウトシステムの機能と使用方法。

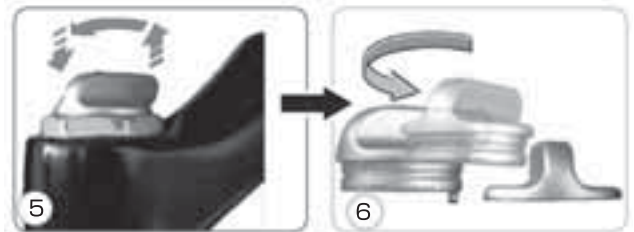
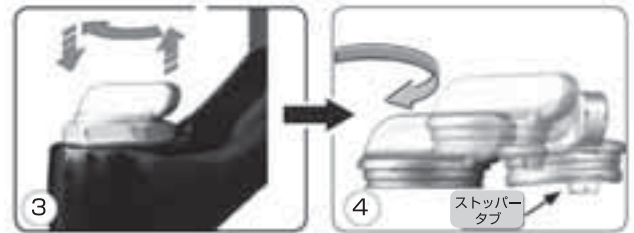
SRサントナーフォークのロックアウト機能はスプリント動作やヒルクライム時の上体の上下動によるサスペンションの動きを減らすための機能です。ロックアウトした状態でハンドルバーを押してもリジットフォークと同じ剛性感はありませんが、ロックアウトしていない状態との差は感じることができます。このロックアウト機能を有効にするには、リモートロックアウト仕様の場合はロックアウトレバーを右に押す、通常仕様の場合はフォークの右肩にあるロックアウトノブを時計回りに回して下さい。ロックアウトを解除するには、リモートロックアウト仕様の場合はロックアウトレバーを左に押す、通常仕様の場合はフォークの右肩にあるロックアウトノブを時計反対回りに回して下さい。このロック、ロック解除の機能はリモートロックアウト仕様の場合は親指1本の操作、通常仕様の場合はロックアウトノブを1回転させることで操作することができます。

備考：ロックアウトカートリッジはフォークの右側にあります。

注意：フォークをロックアウトした状態で悪路走行やジャンプはしないで下さい。ロックアウトした状態でフォークに高い負荷を入力するとRL/L Oカートリッジを破損させる可能性がありますのでご注意下さい。

MTBフォークのロックアウトシステムの調整方法。

- 1.) ロック解除した状態でまだフォークの動きが渋い場合。
ロックアウトノブを全開 (fast) にした状態でノブを上に取り上げて時計回りに約45度回して再びトップキャップに入れて下さい。この状態でさらに45度多くカートリッジをロック解除することができます。この操作の後に再度ロックか解除されているかを確認して下さい。またロックアウトノブをストッパータブに当たるまでロックした状態も確認して下さい。(写真#3、#4参照)
- 2.) ロックした状態でまだフォークの動きが軽い場合。
ロックアウトノブを全閉 (lock) にした状態でノブを上に取り上げて時計反対回りに約45度回して再びトップキャップに入れて下さい。この状態でさらに45度多くカートリッジをロックすることができます。この操作の後に再度ロックさせているかを確認して下さい。またロックアウトノブをロック解除した状態も確認して下さい。(写真#5、#6参照)



油圧式リバウンドダンピングの操作方法。

油圧式リバウンドダンピングの機能と使用方法。

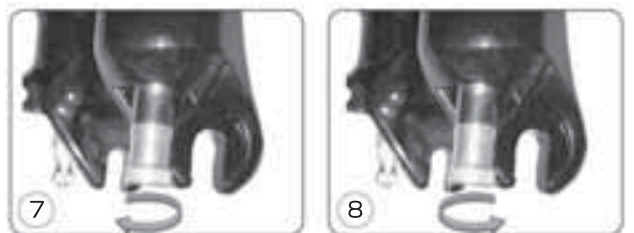
SRサントナーフォークのリバウンドダンピング機能は個人の好み、走行する路面に合わせてリバウンドスピードを調整するための機能です。

リバウンドスピードを速くする。

リバウンドスピードを速くするにはフォーク右側ドロップアウト底部にある調整ノブを時計反対回りに回して下さい。(写真#7) リバウンドスピードがまだ遅い場合は通常フォークオイル (5W) からさらに低粘度 (2.5W) のものに交換して下さい。

リバウンドスピードを遅くする。

リバウンドスピードを遅くするにはフォーク右側ドロップアウト底部にある調整ノブを時計回りに回して下さい。(写真#8)



コイルスプリングプリロードアジャスターの操作方法。

コイルスプリングプリロードアジャスターの機能と使用方法。

SRサントナーフォークのプリロード調整機能は個人の体重に合わせてサグ調整をするための機能です。サグとは自転車に静止した状態で乗車したときにサスペンションフォークが縮む量です。

サグ量を少なくする。

サグ量を少なくする場合はプリロードアジャスターノブを時計回りに回して下さい。(写真#9) このときアジャスターノブ透明窓の黄色い目印が下がります。(写真#10) フォークはプリロード最小で工場出荷されています。

サグ量を多くする。

サグ量を多くする場合は、もしコイルスプリングのプリロードが高すぎる場合はアジャスターノブを時計反対回りに回して下さい。このときアジャスターノブ透明窓の黄色い目印が上がります。推奨サグ量は5ページのフォークパフォーマンス調整を参照して下さい。



リモートトラベルの調整方法。

リモートトラベル調整機能と使用方法。

この機能はフォークのトラベル量を好みや乗車する路面状況に合わせて調整できるものです。トラベル量の調整で上り坂または下り坂を乗車しているときの自転車のハンドリング感覚を変えることができます。

上り坂を乗車している場合、ハンドルの装着されているレバーを押してハンドルバーを下方に押し込んで下さい。好みのフォークトラベル量でレバーを放して下さい。これでより上り坂で乗りやすい前傾姿勢を取ることができます。

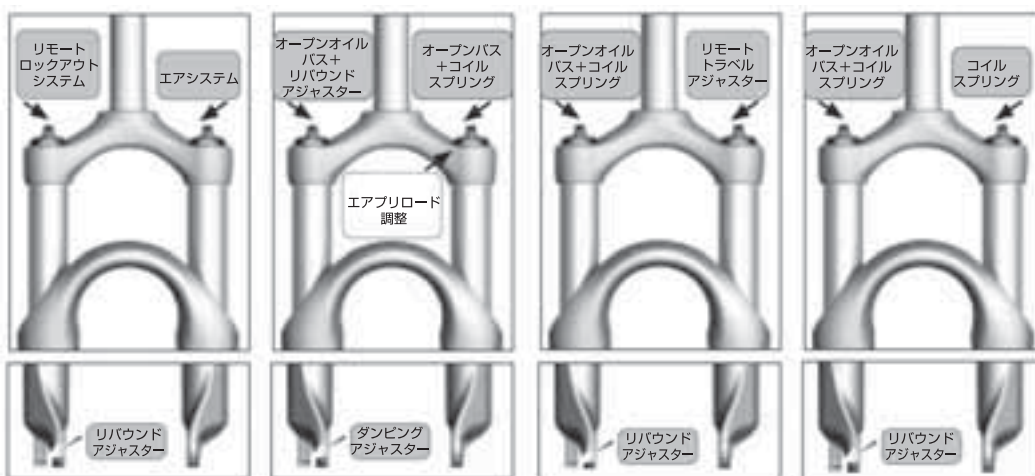
下り坂を乗車している場合、レバーを押してハンドルバーを上方向に引き上げてフォークのトラベル量を最大にして下さい。これでより下り坂で乗りやすい安全な姿勢を取ることができます。

この可変トラベル量は無段階に60mmから120mm（130mm-フォークモデル参照）の範囲で調整可能です。

備考：フォークのトラベル量の変更してもエアスプリング圧は変化しません。あらゆるトラベル量で同じ乗り心地が得られます。



このマニュアルに記載されているフォークシステムの全容。



SF7-AXON RLD
SF7-EPICON RLD
SF7-NRX RLD

SF7-RUX-S

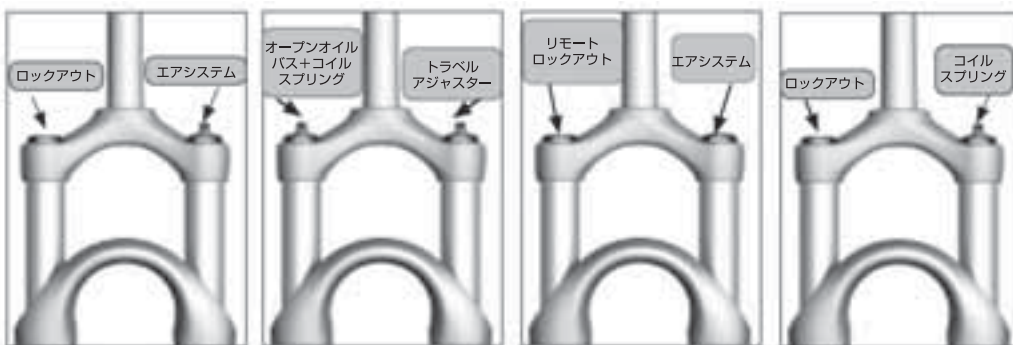
SF7-XC-PRO-TAD

SF7-DURO-DJ-E
SF7-DURO-DJ-D

取り付け可能な
最大ディスクローター径：

SF7-DURO DJ = 210mm
SF7-RUX = 210mm
SF7-XC-PRO = 185mm
SF7-AXON = 185mm
SF7-EPICON = 185mm
SF7-XCR = 185mm
SF7-XCM = 185mm

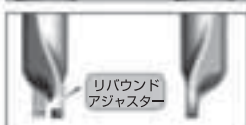
SF7-NRX = 185mm
SF7-NCX = 185mm



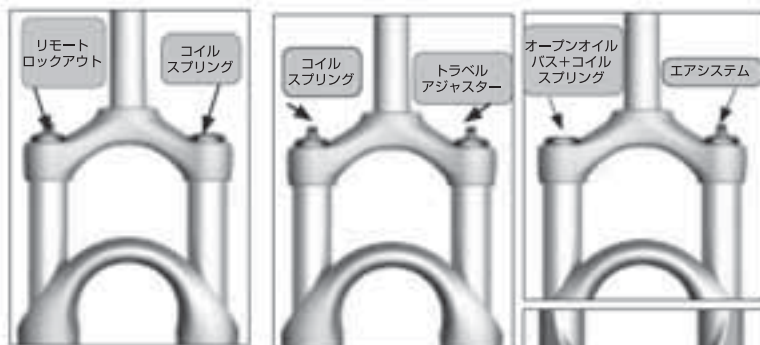
SF7-XC-PRO-TA

SF7-EPICON-RL

SF7-XCR-LO



SF7-EPICON-LOD



SF7-AXON-D-RL

SF7-XCR-TA



SF7-EPICON-DA



備考：このマニュアルに描かれているフォークイラストの形状が実物と異なる場合があります。最新情報は下記ホームページを参照して下さい。
www.srsuntour-cycling.com

フォーク動作調整。

フォーク動作調整。

S R サンツァーのサスペンションフォークは乗車する人の体重、路面状況、スタイルに合わせて調整することが可能です。

サグ調整。

サスペンションフォークは自転車に乗車した時に乗車した人の体重、調整方法によってサグ量（初期の沈み込み量）が増減します。適正なサグ量を調整することにより乗車時の前輪と地面の接触を維持することが可能になります。サグ量は、a.) ポジティブエア圧、b.) スプリングのプリロードを増減することにより調整可能です。（フォークモデルによって調整方法が異なります。）

トラベル	仕様目的	サグ量
80mm	レース	8-12mm
80mm	クロスカントリー	12-16mm
100mm	レース	10-14mm
100mm	クロスカントリー	14-18mm
130mm	フリーライド	20-25mm

フォークのサグ量を測定する方法は、タイラップをスタンションチューブ下部のローワーシール付近に装着して下さい。
次に自転車のサドルに体重をかけて通常の姿勢で平らな路面の道を短い距離乗車して自転車から降りて下さい。
サグ量はローワーシールとタイラップの間隔を測定することで得られます。
フォークのトラベル長に関しては、そのフォークの最長トラベル(120mm)にしてチャートを参照して調整して下さい。

a.) エア圧によるサグ量調整。

エア圧を調整する場合は次の手順に沿って作業をして下さい。
(フォークの右側、左側の表現は乗車した状態から見た方向になります。)

- 1.) フォーククラウンの左右にあるカバーキャップを手で外して下さい。
トラベル調整機能のあるフォークの場合は、左側ドロップアウト下部にあるエアバルブのキャップを外して下さい。
- 2.) サスペンション用エアポンプをフォークのバルブに取り付けて下さい。
- 3.) チャートを参照して適性空気圧まで圧力を上げて下さい。
- 4.) フォークバルブからエアポンプを外して下さい。
- 5.) フォークのカバーキャップを元に戻して下さい。

エアスプリングシステム



トラベルアジャストシステム



b.) スプリングプリロードによるサグ量調整。

スプリングのプリロード調整でサグ量を調整する場合は、上記記述にあるタイラップを使用したサグ量測定方法を参照してサグ量を測定して下さい。サグ量測定後にフォーククラウンにあるプリロード調整ノブを使用してサグ量を増減させて下さい。プリロード調整ノブを時計回りに回すとプリロードを増加、サグ量を減少させることができます。

プリロード調整ノブを反時計回りに回すとプリロードを減少、サグ量を増加させることができます。サグ量は上記のチャート参照して適性範囲内に調整して下さい。適正サグ量に調整ができない場合はフォークのコイルスプリングを交換する必要があります。

2007モデル オイル量 (cc) とエア圧 (psi) 一覧

モデル名	タイプ	トラベル長 (mm)	左側	右側	粘度	左側	右側
SF7 Rux S	オープンバス	130&150	150cc	120cc	10W	15psi	なし
SF7 Rux E	オープンバス	130&150	150cc	120cc	10W	15psi	なし
SF7 Duro DJ E	セミカートリッジ	80,100&130	80cc	なし	10W	なし	なし
SF7 Duro DJ D	セミカートリッジ	80,100&130	80cc	なし	10W	なし	なし
SF7 Duro D	セミカートリッジ	100&130	80cc	なし	5W	なし	なし
SF7 Xcpro TAD	セミカートリッジ	140-60	90cc	なし	5W	120psi	なし
SF7 Axon RLD	セミカートリッジ	80&100	75cc	なし	10W	110psi	なし
SF7 Epicon RLD	セミカートリッジ	80,100,120&140	85cc	なし	10W	120psi	なし
SF7 Epicon RL	セミカートリッジ	80,100,120&140	85cc	なし	10W	120psi	なし
SF7 Epicon LOD	セミカートリッジ	80,100,120&140	85cc	なし	10W	120psi	なし
SF7 Epicon DA	セミカートリッジ	80,100,120&140	85cc	なし	10W	120psi	なし
SF7 NRX RLD	セミカートリッジ	63&75	45cc	なし	10W	100psi	なし
SF7 NRX RL	セミカートリッジ	63&75	45cc	なし	10W	100psi	なし
SF7 NRX DA	セミカートリッジ	63&75	45cc	なし	10W	100psi	なし
SF7 NCX-FT-S-RL		63				100psi	なし
SF7 NCX-FT-E-RL		63				100psi	なし
SF7 NCX-S-RL		63				100psi	なし
SF7 NCX-E-RL		63				100psi	なし
SF7 CR990-LO		63				100psi	なし

メンテナンス



フォークは毎乗車時にチェックして下さい。ご不明な点がございましたらお買い上げいただきました販売店までお問合せ下さい。

下記のチェック事項を確認して下さい。

- フォークの上部チューブまたは下部チューブ、フォーククラウン、ブレース、ドロップアウト等に転倒時もしくはその他の影響でつuitと思われるヒビ割れ、凹みなどの目視可能なダメージがある。
- フロントブレーキで前輪をロックし自転車を前後上下に動かしたときにヘッドセットに普通以上の遊びがある。
- ブレーキパッドとリムの隙間。(通常1-2mm)
- ブレーキレバーの遊び。(通常のレバーの移動範囲の1/3でブレーキパッドがリムに接触する。)
- ブレーキ本体の取り付け剛性。(ブレーキを数回作動させてボルト、ナット類の緩みを確認する。)
- 前輪はフォークチューブ間の中心に位置している。クイックリリースが適正な力で固定されているか確認する。)

メンテナンス

SRサンツアーのサスペンションフォークは、ほとんどメンテナンスフリーで使用できるようにデザインされています。ただ露出している部品の汚れや腐食によって性能が低下することがあります。高い性能。安全性を長く維持するには定期的なメンテナンスが必要です。下記リストに推奨メンテナンス期間を示してあります。

ルブリカントとクリーナー：

- テフロンオイル
 - SRサンツアー スペシャルグリス (SRS No. 9170-001) / 高品質テフロングリス
- ダンピングオイル：
- SRサンツアー スペシャルダンピングオイル (SRサンツアー #PSF01-033 / 粘度5W)

通常メンテナンス：

毎乗車時に下記パーツの点検：

- 前輪とクイックリリースが正しく取り付け、締め付けられている。
- 明らかにフォークにダメージがある。(クラウン、ブレース、アッパーチューブ、ローワーチューブ、ドロップアウト)
- フロントブレーキアウターの取り回し。
- フロントブレーキパッドとリムが適正に接触する。またはディスクブレーキパッドの磨耗状態。
- フロントブレーキレバーの適正な調整と作動。
- ヘッドセットの適正な作動と調整。
- スタンションチューブの傷。傷の状態が深い場合はお買い上げの販売店へご相談下さい。

悪天候、悪路で乗車した場合はもっと頻繁にメンテナンスをすることをお勧めします。



フォークの作動が変わった、通常と異なる動きを感じた場合はすぐにお買い上げの販売店にご相談下さい。

50から100時間の乗車後はお買い上げの販売店での定期点検をお勧めします。
販売店には点検に必要な工具と情報があります。

メンテナンス	毎乗車後	乗車25時間後	乗車50時間後	乗車100時間後
スタンションチューブとダストシール周辺の汚れ除去	●			
メインの取り付けボルト類の締め付け具合 (10Nm)		●		
ダストシール周辺にテフロンまたはその他フォークオイルを注油		●		
フォークの作動確認 / 販売店にてブッシングの汚れ除去とグリスアップ			●	
オイル交換とリモートロック、トラベル調整のテフロンオイルを注油				または年2回
販売店にてフォーク全体の確認				● または1年

フォークメンテナンスの特記事項

サスペンションフォークは乗車時の天候状態によって内部に汚れや腐食が溜まるので定期的なメンテナンスが必要です。正常なフォーク作動を維持するには特に長い期間乗車しないような場合、販売店にて定期的な分解清掃と注油を推奨します。フォークの汚れを落とすのに高圧洗浄機は使用しないで下さい。ダストシールより水が浸入します。フォークのスムーズな作動感を維持するにはダストシールへの定期的なグリスアップも重要です。またフォークの作動が毎25時間後点検にて注油した後でも以前に比べてスムーズに動かなくなったときは、お買い上げいただいた販売店にてフォークの分解、清掃とダストシールとメタルブッシングのグリスアップを行って下さい。

販売店でのメンテナンス時には、フォークの汚れをきれいにしてお持ち込みして下さい。

定期的に必要なとされるメンテナンスを行っていないフォークはメーカー保証の対象外になることがありますのでご了承下さい。

